

令和2年度 事業報告



千葉科学大学

「健康で安全・安心な社会」の構築に貢献できる人材の養成を行う



本学は、「健康で安全・安心な社会の構築に寄与できる人材の養成をすること（教育目標）、それらの探究を進めること（研究目標）、地域と共生する大学づくり、平和で文化的な地域づくりへ参画すること（社会貢献の目標）」を大学の目標としています。

本学は、2016年に「10年後における千葉科学大学のあるべき姿（将来像）」として「CIS Vision 2026（中期目標を含む）」を設定しました。このビジョンは【Ⅰ】教育改革、【Ⅱ】研究推進、【Ⅲ】学外連携・地域貢献、【Ⅳ】総合的學生支援、【Ⅴ】大学運営と内部質保証の5項目より構成されており、このビジョンの実現に向けて策定した中期計画に基づいて事業計画を推し進めています。4年目となる今年度の事業方針と重点事項を以下のように設定しました。

Ⅰ. 教育改革 初年次教育においては、留学生に対する日本語教育を充実させます。リメディアル教育では、スタートアップセミナーを実施し、確認試験において効果検証します。また、教学マネジメント推進のため、新たに委員会を設置し、学修成果・教育成果の可視化に向けてデータを収集します。大学院教育においては、引き続き教育プログラムの改善に取り組むとともに、社会人の受け入れ体制を整備していきます。

Ⅱ. 研究推進 各学部において科研費等の競争的資金申請を推進するほか、本学が重点研究対象に掲げている「好適環境水等の新技術を応用したブランディング事業」に関わる研究を飛躍的に発展させるよう取り組んでいきます。

Ⅲ. 学外連携・地域貢献 学外連携プロジェクトとして、社会人（動物看護師等）を対象としたeラーニングによる履修証明プログラムや、新たな社会人を対象とした履修証明プログラムを開講するほか、外部機関と共催する公開講座などを開講します。また、地（知）の拠点として包括連携協定先を近隣市町村に拡充し、産学官連携事業を展開していきます。

Ⅳ. 総合的學生支援 全学生に対し、チューターによる修学状況等の面談を行い、学生の学修生活の改善を促します。また、就職支援・公務員試験対策として、新たに就職適性検査や面接対策特別講座を取り入れるほか、国家試験対策においてもさらに充実させます。そのほか、課外活動活性化のための支援や留学生支援を充実させるとともに、学生が満足できるキャンパスの整備に引き続き取り組んでいきます。

Ⅴ. 大学運営と内部質保証 アセスメントポリシーに基づいた3つのポリシー達成状況評価から問題点を検出するとともに、ポリシーを適正に達成するための改善策を策定します。また、各学部と連携して3つのポリシーに基づいた教育の質に係る自己点検・評価を全学的に行います。教職員の人材育成では、eラーニングを含むICTを用いた講義の導入を加速させるためのFD活動を行うほか、教員も対象としたSD活動として、法人全体で行っている人材育成プログラムも取り入れながら、業務に直結する専門性のあるSD研修を計画・実施します。

千葉科学大学 学長 木曾 功

【 I 】 教育改革

教育の質保証を目指した教学マネジメントを適切に機能させ、学生の多様なニーズ、時代の変化に対応した教育プログラムの充実を図り、それぞれの専門分野において、自分の進路に対する明確な目的を持った、安全・安心な社会の構築に寄与する優れた人材を育成することを目指します。

1. 大学の教育改革に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
① 初年次教育の組織的展開	【 I-1-1 】 ・留学生に対する初年次日本語教育を充実させる。	・学科カリキュラムに掲載されている日本語科目とは別に、日本語力が不足している学生に対して、日本語基礎 I・II・III・IV を開講し Zoom と対面式を併用して実施した。また、日本語能力試験の N1 を目指して、上級クラスの日本語教育も実施した。
② 入学前・リメディアル教育の充実	【 I-1-2 】 ・令和2年度スタートアップセミナー（春学期、秋学期）を実施する。 ・セミナー実施中、並びにセミナー終了後の確認試験により講義内容の定着度を調べ、効果を検証する。	・新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。
③ 実効性のある教学マネジメントの推進	【 I-1-3 】 ・教学マネジメント委員会を立ち上げ、教育目的を達成するために学修成果・教育成果の可視化が可能となるようなデータを収集する。	・教学マネジメント委員会の開催はできていないが、学習成果・教育成果の可視化を可能とするためのデータ蓄積を行った。
④ キャリア教育対策	【 I-1-4 】 【薬学部】 ・1～4年次では早期体験学習などキャリア意識を育むための科目が、5～6年次では、実務実習など現場体験を重視したプログラムや課題解決能力を養う科目が配置されている。まず、これら現行カリキュラムが機能し、卒後、社会人としての自立に寄与しているのか検証を行う。	【薬学部】 ・現行カリキュラムが機能しているかの検証のため、卒業生、および卒業生が就職している事業所に対するアンケート（追跡調査）を計画し、アンケート内容、対象者について準備中である。

	<p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部共通科目であるキャリアデザインⅠ・Ⅱを通して様々な分野で活躍している人材並びに卒業生による、職業教育を実施する。 各学科に対し、選択科目である就業力育成特論受講の啓発を行い、受講率の向上を目指す。 <p>【看護学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学部では、保健師・看護師国家試験受験資格ならびに、養護教諭1種の免許取得に必要な教育課程編成がなされており、教育課程全般にわたり必要なキャリア教育対策を実施しており、その向上を目指す。 	<p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋学期の必修科目として実施し、学外から講師（消防官、警備会社社長、犯罪被害者支援会、元NHKアナウンサーなど）を招聘するとともに、内定者報告会、OB・OG報告会も開催した。 春学期オリエンテーションで当該科目の意義、履修内容について学生に説明し、啓発を図った結果、履修者が昨年度35名から74名と約2倍に増加した。これまで危機管理学科の学生が主体であったが、他学科の履修者も増加した（環境1、医療28、動物7）。また、授業アンケートの結果でも学生満足度が高かった。 <p>【看護学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次養護教諭課程履修学生16名、2年次養護教諭課程・保健師科目履修学生61名、3年次保健師科目履修学生16名、養護教諭課程履修学生3名、4年次保健師科目履修学生20名、養護教諭課程履修学生9名に対し、キャリア教育を実施したほか、3年生を対象に「看護学生のための就活スタートアップ講座（①②動画配信）」及び就職ガイダンスを実施した。
<p>⑤ 愛校心(帰属意識)の高揚教育・育成</p>	<p>【I-1-5】</p> <ul style="list-style-type: none"> 同窓ネットワークの構築を目指すため、銚子市内勤務又は千葉県等近隣在住のOB・OGと在学生との交流会を新たに実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 当初、交流会は大学祭での開催を予定していたが、その大学祭自体が中止となったため、交流会も中止した。
<p>2. 大学院の教育改革に関する目標</p>		
<p>中期計画</p>	<p>令和2年度事業計画</p>	<p>令和2年度事業報告</p>
<p>① 大学院教育の充実</p>	<p>【I-2-1】</p> <p>【薬学研究科】</p> <p>1. 大学院教育の充実</p> <p>①薬学専攻について、より臨床的な課題を対象とする研究領域を中心に、薬剤師に焦点を当てた医療薬学に関する教育研究の充実を検討する。</p>	<p>【薬学研究科】</p> <p>1. 大学院教育の充実</p> <p>①医療薬学に関する教育研究の充実について検討した結果、大学院学生の研修(実習)先確保、研修費用等の課題が挙げられ、課題解決に向け、さらに検討を継続する。</p>

	<p>②大学院学生の主任指導教員だけではなく、複数の教員による教育研究指導体制を整備する。</p> <p>③期間内で学位論文を提出し、修了要件をクリアできるよう入学時からのオリエンテーション、サポートを充実する。</p> <p>2. キャリアサポート</p> <p>①修了後の学生が、自立した薬学研究者として社会で活躍できる能力をキャリアへ活かすことができるようサポートする。</p> <p>3. 学生確保</p> <p>①入学者確保に向けた戦略を立案する。</p> <p>②薬科学専攻に関しては、生命薬科学科の募集停止に伴い、存続を含めて研究科で議論と検討を実施する。</p> <p>【危機管理学研究科】</p> <p>1. 大学院教育課程の見直し</p> <p>①危機管理学研究科サテライト教室総合危機管理学コースのカリキュラムおよび履修方法の検討を行う。</p> <p>②危機管理学研究科サテライト教室総合危機管理学コースの修了要件の見直しについて検討を行う。</p>	<p>②現状、研究室単位での複数教員による教育研究指導体制となっており、すべての大学院生について複数教員の指導体制を検討する予定であったが、学部における指導体制の見直しを優先して行ったことにより、大学院の検討が遅れた。</p> <p>③概ね期間内に学位論文を提出し、修了要件をクリアできているが、メンタルヘルスに関わる理由により提出できないケースがあったため、積極的な専門家のカウンセリングの利用を促し、サポートした。</p> <p>2. キャリアサポート</p> <p>①博士、修士の学位取得者で企業にて活躍されている方との交流の機会や大学院向けインターンシップ情報の提供を予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、交流の機会等、設けることが出来なかった。今後、オンラインの活用を考慮する。</p> <p>3. 学生確保</p> <p>①学部方針として薬剤師国家試験合格に向けた教育にプライオリティを置くこととなったが、国家試験合格後、大学院進学の特典について学部生に周知した。</p> <p>②令和3年度入学生に博士課程進学志望者がいるため、以降5年間は存続することとなったが、その間に薬科学専攻への他大学卒業者の受け入れについてメリット、デメリットを精査する。</p> <p>【危機管理学研究科】</p> <p>1. 大学院教育課程の見直し</p> <p>①2月8日に行われた、大学院運営委員会において、総合危機管理学コースではサテライト教室を使用せず、高度なメディア技術（Zoom等）を活用した教育体制について基本方針を決定した。</p> <p>②2月8日に行われた大学院運営委員会において、修了のための必要単位数と特別研究及び課題研究の扱いについて決定した。</p>
--	--	---

	<p>③危機管理学研究科として現代的課題（自然災害、人為災害など）のニーズに対応した質の高い取組み支援プログラムを構築する。</p> <p>2. 教員の研究指導能力の向上</p> <p>①課程の目標や教育方法などについてFDを実施する。</p> <p>②教員評価の実施を検討する。</p> <p>3. 地域連携活動の推進と地域発展への貢献</p> <p>①大学院教育と地域社会のニーズをマッチングさせる。</p> <p>②地域からの社会人大学院生の進学のシステムを構築する。</p> <p>4. 大学院進学者の確保</p> <p>①昨年に引き続き大学院で取得できる実現可能な資格に絞って更なる検討を加える。</p>	<p>③自然災害の危機管理（クライシスマネジメント）として自治体や警察、消防、自衛隊が共同して災害対策を実施できるシステムの構築の研究を、博士課程のテーマとして行った。</p> <p>2. 教員の研究指導能力の向上</p> <p>①大学院運営委員会において教育方法などについてのFD開催を検討したが、コロナ禍の中、実施できなかった。</p> <p>②学部で実施している内容を大学院向けに改変し、大学院教員評価表を作成した。</p> <p>3. 地域連携活動の推進と地域発展への貢献</p> <p>①災害時において、銚子のホテルに泊まっている観光客の避難誘導を効率的に行う研究や、一次救命処置（BLS:Basic Life Support）において、AHA（American Heart Association）心肺蘇生と救急心血管治療のために質の高いCPRを評価できる定量モニターを開発するなど、地域の観光施設や医療機関とともに共同で研究を継続中である。</p> <p>②社会人向けの大学院である総合危機管理学コースと医療マネジメントコースについては、文部科学省の職業実践力育成プログラム（BP）に申請し、12月に認可を受けた。また、産学連携交流・研究活動を推進するパンフレットを作成し、地域の医療機関や企業に広報活動を行った。</p> <p>4. 大学院進学者の確保</p> <p>①大学院運営委員会において細胞検査士、博物館学芸員、食品衛生管理者・監視員、実験動物一級技術者等の資格取得を検討したが、実現可能な魅力のある資格に絞り、さらに検討が必要であると確認され、次年度も引き続き議論することとした。</p>
--	---	---

	<p>②学内からの入学生増加の方法について検討する。</p> <p>【看護学研究科】</p> <p>1. 学生の学修支援の強化</p> <p>①入学前にオリエンテーションを実施し大学院研究科の履修や就業との両立についてイメージできるような支援をする。</p> <p>②大学院設置基準第14条における教育方法の特例により、社会人に配慮した日別時間割作成を継続する。</p> <p>③計画した期間内で修士論文を提出し、修了できるようサポートする。</p> <p>④学生本人が、修士課程修了後のキャリアへの活かし方や組織・地域への貢献の仕方について構築できるようサポートする。</p> <p>⑤個々の院生の背景やニーズに合わせた履修が可能な科目構成とする。</p> <p>⑥学生の学修環境の向上を図る（院生講義室・院生室など）</p>	<p>②学部生に対する大学院説明会の開催やオープンラボなどを適時行うことを大学院運営委員会において決定した。</p> <p>【看護学研究科】</p> <p>1. 学生の学修支援の強化</p> <p>①令和3年度入学予定者に対し、1)大学院の授業概要、2)修士課程修了に必要な単位数と授業科目の取り方、3)質疑応答、4)令和3年度連絡事項等について、入学前オリエンテーションを令和3年3月24日に実施した。</p> <p>②共通科目6科目を受講する学生は全員社会人であったため、講師の都合とそれぞれの学生の勤務状況で可能なように時間割を組むなどの調整を行った。</p> <p>③これまでは研究指導教員と学生が研究計画書を作成し、完成した段階で研究計画検討委員会に提出する方式であったが、今年度より、研究計画検討会を2か月に1度のペース（9月、11月、1月）で定期的開催し、学生が毎回参加することで、研究計画書の作成段階から複数教員での指導を受けることが可能な体制とした。</p> <p>④それぞれの学生が適宜相談できるような体制を整えている。秋学期のオリエンテーション時に学生の修了後のキャリアについての展望を把握し、その後は学生の状況に応じて個別に支援した。</p> <p>⑤時間割に関しては、②と同様であり、科目選択については、個人の背景や今後のニーズに合うような科目選択ができるように支援した。</p> <p>⑥院生の学習環境である院生講義室と院生室について、6号館3階のゼミ室11・12が使えるように調整した。適切な環境が確保でき、講義やゼミが行いやすくなっている。</p>
--	---	---

	<p>2. 研究科組織の安定運営</p> <p>①学内審査により、大学院教育に関与できる教員数の増加を図る。</p> <p>②より円滑な運営のために委員会構成を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文の研究計画書作成に関しては、従来の研究計画検討委員会に代わるものとして、教務委員会内に「研究計画検討会」を設置する。 ・研究計画書の倫理審査に関しては、従来の看護学研究科倫理審査委員会に代わるものとし「千葉科学大学ヒトを対象とする研究倫理審査委員会」にて研究倫理審査を受ける。 <p>③個々の教員の能力が充分発揮できる組織にする。</p> <p>④研究分野・科目構成の見直しを図る。</p> <p>3. 入学生の安定確保</p> <p>①入試日程に合わせて「社会人学び直し研修」を実施する。</p>	<p>2. 研究科組織の安定運営</p> <p>①今年度中に、研究科教育に関与できる教員を増加すべく、昇格の条件について検討し、3名増加した。</p> <p>②より円滑な運営のために委員会構成を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より従来の研究計画検討委員会の在り方を変更し、独立した委員会ではなく、教務委員会の所管として研究計画検討会と位置付けた。 ・今年度より従来の看護学研究科倫理委員会を廃止し、「千葉科学大学ヒトを対象とする研究倫理審査委員会」にて研究倫理審査を受けることとした。 <p>③個々の教員の能力が充分発揮できる組織にするため、2か月に1度のペースで定期的開催する研究計画検討会に、研究科に属する全教員が指導教員として参加することとした。</p> <p>④本学があるエリアの施設で働く社会人ナースにとって魅力的な新たな分野として「看護マネジメント学」を設置し、令和3年度からの入学希望者の受け入れが可能となった。さらに、現在小児看護学分野のみのCNSコースに、新規にがん看護分野の設置を検討すべく、基礎的資料を収集した。</p> <p>3. 入学生の安定確保</p> <p>①新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた6～8月のオープンキャンパスの実施ができなかったが、代替案として11月28日(土)に開催した「看護実践連携研究会」のプログラムの中で、「アカデミックスキル」について説明する時間を設けた。また、3月13日の二次募集に応募する希望者に対して個別に対応した。</p>
--	--	--

	<p>②入試は二次募集を実施する。</p> <p>③入試では、「社会人特別選抜」の入試科目内容について再検討する。</p> <p>④色刷りのパンフレット・入学試験要項を千葉・茨城県内約 100 施設に送付する。</p> <p>⑤学部卒業生が 2021 年度には卒後 3 年目を迎えるので、卒業生が就職した施設にもパンフレットを送付する。</p> <p>⑥オープンキャンパスでは、研究科を紹介する企画を工夫する。</p> <p>⑦各施設への研究科への関心が高まるような看護研究指導を行う。</p> <p>⑧看護実践連携研究会開催時に研究科を紹介できる工夫を行う。</p> <p>⑨科目等履修制度について検討する。</p>	<p>② 3 月 13 日（土）実施に向けて希望者をリクルートするために近隣の主な病院等に研究科の説明を行い、個別対応も行った。</p> <p>③2021 年度の募集要項では、社会人特別選抜の受験科目から英語を廃止し、社会人の受験に対する門戸を広げた。</p> <p>④「看護マネジメント学」コース入りの入学試験要項を二次募集に合わせて実習病院を中心に持参した。</p> <p>⑤色刷りのパンフレット・入学試験要項を作成し、令和 2 年 4 月吉日付で千葉・茨城県内約 100 施設と卒業生の勤務する施設 187 箇所に送付した。</p> <p>⑥新型コロナウイルス感染症の影響でオープンキャンパスは実施できなかったが、研究科入学に関心のある社会人ナースに個人面談をして説明を行った。</p> <p>⑦看護実践連携研究会役員会で病院をはじめ、それぞれの施設で看護研究指導についてのニーズを把握し、共通している内容について研修会や発表会でのミニレクチャーを行い、個別の内容に関しては該当する教員の協力を得て研究指導体制を説明した。</p> <p>⑧第 1 回目の 5 月は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。第 2 回目の 11 月 28 日（土）に開催した「看護実践連携研究会」のプログラムの中で、「アカデミックスキル」について説明する時間を設け、研究科長が研究科の魅力についても触れた。</p> <p>⑨開学後 2 年が経過し、今年度は看護マネジメント学の追加や共通科目の単位の見直し、研究指導体制の見直しなどを優先して行ったため、当初の予定よりも多忙となってしまう科目等履修制度の検討が出来なかった。</p>
--	---	---

<p>② 社会人の受け入れ体制の整備</p>	<p>【I-2-2】</p> <p>【薬学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人の受け入れについて、製薬企業、病院を含む医療機関について小規模な聞き取り調査を実施して、社会人の需要の有無について検討する。 ・社会人の受け入れ体制について検討する。 <p>【危機管理学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合危機管理学コースの存続を含め研究科で検討する。 ・完成年度を迎える医療マネジメントコースの評価と改善を行う。 <p>【看護学研究科】</p> <p>1. 個々の教育プログラムの適正化：</p> <p>①共通科目が終了した時点で、漸次院生に授業評価を行い、内容や開講時期などを点検する。</p> <p>2. 個々の学修状況の把握と効果的な学びを可能にする指導：</p> <p>①学修内容が学生の背景や修了後のニーズと適合するような科目選択を指導する。</p> <p>②教員（非常勤講師）には科目終了時に、学生に対しては、春・秋学期オリエンテーション時にヒアリングを行い学修状況や個々のニーズの把握に努める。</p>	<p>【薬学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生 39 名に小規模アンケートを実施し、需要の有無調査を完了した。今後は集計・評価を実施し、結果を踏まえながら、土日開講やオンライン等、受け入れ体制について検討する。 <p>【危機管理学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サテライト教室を廃止し、全国どこからでも受講できるよう、e - ラーニング等の通信技術を用いていくことを研究科委員会にて決定した。 ・授業アンケートの内容を一部改正し、大学院生用のアンケートを作成した。 また、日本臨床衛生検査技師会と、現状報告や次年度の学生募集について意見交換を行った。 <p>【看護学研究科】</p> <p>1. 個々の教育プログラムの適正化：</p> <p>①共通科目が終了した時点で授業評価を実施した。</p> <p>2. 個々の学修状況の把握と効果的な学びを可能にする指導：</p> <p>①学修内容は個人の背景や今後のニーズに合うような科目選択ができるように支援している。特に修士論文の指導の場である研究計画検討会では、個人の背景を尊重しながら指導をした。</p> <p>②非常勤講師にはその都度ヒアリングを行った。学生の秋学期オリエンテーションを令和2年9月7日に実施し、学生全員が参加した（2名がリモート）。その際にヒアリングを実施した。</p>
------------------------	---	--

	③高度実践看護師教育課程を継続する。	③現在小児看護学分野のみの CNS コースに2名在籍している。新規に応募者を募ると同時に、がん看護分野の設置の準備をすべく、基礎的資料を収集した。
--	--------------------	---

【Ⅱ】研究推進

外部資金獲得のためのサポート体制などの環境が整備され、多くの教員が研究活動を推進させて外部資金を積極的に獲得するとともに、本学独自のいくつかの研究分野において、国内外から本学が重要な研究拠点になることを目指します。

1. 研究活動の推進・充実に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
① 研究活動に係る補助金（科研費等）の積極的な獲得	<p>【Ⅱ-1-1】</p> <p>【薬学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己点検評価面接あるいはFD講演会にて外部研究資金獲得への指導をする。 外部研究資金申請に関する説明会を実施する。 学術論文発表を積極的に働きかける。 <p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 科研費および外部資金獲得に向け、学部として推進する。また、危機管理学部教員自己点検・評価時の面接においても補助金獲得の推奨を行う。 <p>【看護学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内科研費は元より、科研費を含めた外部資金獲得への指導を年度初めの自己点検評価面接時に実施し、年度末にその成果報告を受ける体制を継続する。 	<p>【薬学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月教授会で学部方針として薬剤師国家試験合格に向けた教育にプライオリティをおくこととなり、研究推進に関しては条件付きで実施することとなったが、研究方針については次年度に検討する。 可能な範囲で外部資金獲得に向け、FD講演会の開催を検討していたが、学部の研究方針が未確定であったため、開催出来なかった。 学術論文発表については、研究実施の条件として、今後学術論文投稿を組み込むことを年度末に通知した。 <p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年4月、自己点検・評価に係る年度目標を報告させ、科研費等取得に向けた指導を行った。今年度の成果としては科研費6件、受託研究1件、寄付金12件であった。 <p>【看護学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年5月に実施した面談において教員の研究計画を把握し、指導を行った。研究成果報告については、3月末に文章で提出させた。

② 外部資金獲得のための環境整備	【Ⅱ-1-2】 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、研究支援を紹介するホームページの整備を行い、補助金公募情報の活用を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究支援を紹介するホームページの整備を行い、補助金公募情報について閲覧しやすいようにした。
------------------	--	--

2. 本学独自の研究分野における研究拠点の構築に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
① 「好適環境水」等の新技術を応用したブランディング事業の推進	【Ⅱ-2-1】 <ul style="list-style-type: none"> ・次世代型陸上養殖施設の運用について見直しを行う。 ・好適環境水を用いた陸上養殖技術開発試験を行う。 ・モクズガニの種苗を生産する。 ・陸上植物・廃棄食材等の効率的飼料を用いた、水生生物（ウニ等）の飼育試験を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでブランディング事業費で賄っていた陸上養殖施設の人件費および電気代等ランニングコスト削減について検討した。具体的な対策として、施設運営人員については水生動物関連のサークルを立ち上げ（Club AquaCulture）、サークル活動の一環としてボランティアで運用の補助をしてもらえよう、体制を整えた。また、電気代については実験に支障がない限り、設定水温を季節ごとの平均気温に準じた水温に変更し、コスト削減を図った。 ・好適環境水を用いたアクアポニクス（複合養殖）等の試験を実施し、生育させることに成功した。 ・陸上養殖施設にて6月より試験的にモクズガニの種苗生産を開始し、8月には幼ガニの生産に成功した。幼ガニの一部は現在屋外水槽にて飼育中である。 ・陸上養殖施設にて、7月に入手したムラサキウニを、キャベツ等陸上植物を用いて飼育試験を4か月間実施し、味覚試験を行った。

【Ⅲ】学外連携・地域貢献

大学が地域社会における様々な産官学連携プロジェクトの中核となり、地場産業の振興や人材の育成に寄与し、地域活性の中核を担う存在になることを目指します。

1. 積極的な学外連携プロジェクトの展開に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
	【Ⅲ-1-1】 <ul style="list-style-type: none"> ・例年通り県内及び本学近隣地域を主な対象とした外部機関と共催する公開講座等を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月2日から10月9日にWEB開催された日本動物看護学会第29回大会にて公開講座として、専門職として考える「ポストコロナ新しいペットの防災・減災」を同時開催した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の動物看護師を対象とした、eラーニング形式による履修証明プログラムを銚子会場に加え、東京会場を新たに設けて開講する。さらに、新しいプログラムとして非臨床安全性評価人材養成プログラムを開講する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、社会人に対して新規の募集を行えなかったが、昨年スクーリングに参加出来ず資格を与えられなかった社会人3名のみ12月2日、12月16日のスクーリングに遠隔で参加してもらい資格を与えた。
--	--	--

2. 地域活性の核となる知の拠点の形成に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
① 地(知)の拠点整備事業(COC)の実施	【Ⅲ-2-1】 <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県北東部及び茨城県南東部の地(知)の拠点として、これまで銚子市を中心として締結してきた包括連携協定を近隣市町村に拡充し、地場産業の振興や人材の育成に寄与できる産学官連携事業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに、銚子市及び銚子市教育委員会と共催の下、市民公開講座を20講座開講し、延べ約400名が参加した。

3. 「地育・地就」実現のための環境整備に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
① 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)の実施	【Ⅲ-3-1】 <ul style="list-style-type: none"> ・銚子市が各地方自治体と共催する『ジャパンチャレンジャーアワード』等の地域の新規産業参入、就職先の創生を目的とする活動に外郭団体として参画し、地方創生の取り組みに協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・銚子市が各地方自治体と共催する『ジャパンチャレンジャーアワード』は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年6月に延期になった。

【Ⅳ】総合的學生支援

本学の学生に対して、学習面・生活面・就職面・経済面などのあらゆる面において、強力な総合支援体制を整備・充実させ、質の高い教育支援環境を提供することを目指します。

1. 学習支援体制の充実に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
① 学生ポートフォリオシステムの効果的活用による学習支援策の充実	【Ⅳ-1-1】 <ul style="list-style-type: none"> ・チューターは全学生に対し、修学状況等に関する面談を行い、面談記録をポータルサイトに入力集約する。この活動を通じて学生の学修生活の改善を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春学期の成績評価が出そろった段階で教育・進路懇談会を開催し、その状況を踏まえて全学生への面談実施を学務委員会で各教員に依頼し、実施した。面談記録に記載のない場合は当該教員に対し督促を行った。

2. 経済支援制度の整備・充実に関する目標		
中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
① 効果的な経済的支援策（奨学金制度等）の整備・充実	【IV-2-1】 ・高等教育無償化制度の発足に伴い、本学独自の経済的に修学困難な学生に対する授業料減免制度は廃止する。今後、高等教育無償化制度の条件から逸脱した場合は、学内で制度復活を審議する。	・高等教育無償化制度の運用は滞りなく終了した。新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い新設された「学びの継続」等国の諸施策も行った。新型コロナウイルス感染症の蔓延による家計の急変があった場合は、状況に応じて臨時対応を行っていく。
3. 就職支援体制の強化に関する目標		
中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
① 戦略的就職支援策の整備	【IV-3-1】 ・全学就職内定率97%（前年度と同じ）を目指すため、これまで実施してきた就職ガイダンスに加え、新たに就職適性検査を希望者を対象として実施する。	・新たな就職適性検査として、(株)学情が提供する「就職模擬試験」を1・2年生対象に8～11月までに5回実施し、延べ346名が受験した。
② 公務員試験対策の強化・合格数増加	【IV-3-2】 ・公務員採用試験合格者70名（前年度と同じ）を目指すため、これまで実施してきた面接対策や小論文対策に加え、新たに面接対策特別講座を希望者を対象として実施する。	・新型コロナウイルス感染症の影響で新たな面接対策講座を委託する会社が見つからず、中止せざるを得なかった。その代替措置として、公務員試験の2次面接受験者に対する模擬面接を7～12月までに延べ55回実施し、面接対策強化を図った。

<p>③ 国家試験対策の充実・合格数増加</p>	<p>【IV-3-3】</p> <p>【薬学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度の結果を点検し、その結果に基づいて対策を実施する。 低学年から国家試験を見据えた対策の強化（オープン試験、共通オフィスアワー） 学力別対応（グループ分けし、下位者対応を強化する）。 <p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自発的な勉学促進のため学生国家試験委員を選出する。 国家試験全国平均以上の合格率を目指し、国家試験補習講義を充実させる。 	<p>【薬学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> スタートアップ模擬試験で全国における当学生の学力の現状を分析し、国家試験対策委員会で検討、議論、方針を策定した。また、合格率アップのため、10月教授会で薬剤師国家試験合格にプライオリティをおき、指導強化することとなったため、国家試験ホームルーム制度として、新たに国試専任チューター制度をとった。更に、国家試験対策委員会等の組織を改編した。 新型コロナウイルス感染症防止対策のため、春学期の間中断していた共通オフィスアワーは、秋学期より低学年への対応をリスタートした。また、オープン試験を11月に実施した。 低学年については、学習習慣定着を目的とした共通オフィスアワーを秋学期より再開した。6年生に対しては、7月時点の学力に応じた国家試験対策専用のクラス担任を選定し、ホームルームを実施した。また、下位者対応強化として、低学年は共通オフィスアワーにて補習を行い、6年生はクラス担任が毎日の学習進行を管理した。 <p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響と臨地実習が繰り下げになった関係で、学生国家試験委員を選出することができなかった。 臨床検査学コースでは、7月より月に1度、過去問題を用いた模擬試験を実施した。臨床工学コースでは、2週間に1度、全国統一模擬試験の過去問題を用いた模擬試験を実施した。対策授業は、隣地実習中は、学生が大学に帰校後の時間帯に勉強と質問時間を設けた。臨地実習終了後は、対策授業及び個別対応を実施した。また、ME試験の過去問題を利用し、適宜模擬試験を行い、電気電子分野、医用計測、生体機能代行装置分野の強化を図った。救急救命学コースでは、4月からZoom方式で国家試験過去問題を中心とした
--------------------------	---	--

	<p>【看護学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験対策を1年次より計画的に実施する。 ・ 1・2・3期生の4年間の国家試験対策の評価を行い、4期生以降の国家試験対策に反映する。 ・ 4年次生のうち国家試験対策の遅れている学生への計画的な早期対応を行う。 	<p>レジュメを作成し実施した。また、特に正答率の低い問題のポイントを解説した。レジュメは分野別となっており、学生全員がポータルサイトから利用できるように工夫した。12月からは他の教員の空き時間を利用して月曜日以外にもゼミ室ごとに国家試験対策を行った。</p> <p>【看護学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度はじめに各学年の年間計画を立てて国家試験対策を実施していた。 ・ 3期生の国家試験対策の評価を活かし、4期生の国家試験対策を実施した。 ・ 春学期、国家試験対策が遅れている学生を洗い出し、重点的に夏休みに対応をした。夏休みの成果がでなかった学生を洗い出し、11月以降は業者・教員による対策講座の開催、毎日1限のミニ模試を実施した。また、模試成績が悪い34名に対し、12名の教員が個別指導を行った。
--	--	--

4. 学生生活の支援対策の整備に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
<p>① 学生の健康維持・管理に関する支援策の整備・充実</p>	<p>【IV-4-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいのある学生に対する健康支援の実施内容を調査し、集計して問題点に対する改善策を策定し、改善する。 ・ 受動喫煙防止のための継続的な教育と新しい知見等を情報発信する。 ・ 新しいウィルス等の感染防止のために病院・保健所・感染研究所などからの情報を入手し、速やかに情報伝達し学内感染を予防する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいのある学生に対する支援内容を調査・把握した。問題点に対する改善策の策定並びにその改善について衛生委員会で議論した。 ・ ポスター、ステッカーを掲示し、受動喫煙に対する継続的な呼びかけを実施した。また、衛生委員会で敷地内禁煙の法律の変更がないことを確認し、これまでのように継続的な呼びかけを実施した。 ・ 厚生労働省、文部科学省、県などからの情報を収集し、学内の新型コロナウイルス感染症対策室から情報を発信した。

<p>② 課外活動活性化のための積極的な支援</p>	<p>【IV-4-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学祭について学生と教職員との協働は継続して実施する。 ・大学祭での集客を目指し、大学祭期間中に使用できる割引券をオープンキャンパスで来学した高校生に配布することも継続して実施する。 ・クラブ活動や大学祭が盛んに行われるよう、活動実績のないサークルは大学祭に参加するよう学友会会則を変更したため、活動実績の報告、確認を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で大学祭が中止となった。次年度については、コロナ禍が長引いても大学祭が開催できるようリモート等の方法を模索する。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で大学祭が中止となった。次年度においてもコロナ禍が長引いた場合は、新たな集客方法を模索する。 ・次年度においてもコロナ禍が長引いた場合は、クラブ活動の自粛も継続することになるが、学友会会則を変更し全ての学生から会費を徴収していることから、活動資金の使用方法を検討していく。
<p>③ 学生寮の完備・充実</p>	<p>【IV-4-3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寮内トラブルを防ぐため、引き続き寮のオリエンテーションを実施する。 ・学生課職員による巡回を定期的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年3月30日（木）、9月16日（水）に寮のオリエンテーションを実施した。令和元年度に比べてトラブルも減少した。 ・学生課女性職員による巡回を実施し、寮の状況を把握することによりトラブルは減少してきた。
<p>④ 留学生支援の強化</p>	<p>【IV-4-4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生数増加に伴い、受入体制の整備を行う（寮、入管申請、学生管理、日本語教育等）。 ・プレースメントテスト時に併せてアンケートを実施する。 ・日本語能力の向上、均一化を図るべく1年次の日本語授業を充実させる（具体的には、現行の日本語Ⅰ、日本語理解Ⅰに加えて、週4回1限目に「日本語基礎」及び「N1指導」を行う）。 ・留学生委員会及び留学生委員会ワーキンググループを定期的を実施し、全学的に問題点の改善を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開学してから留学生の入学者数が最大人数となり、留学生寮への入居者数も最大人数となったことから、寮の用意（備品含め）、入国管理局の手続き、住民登録・健康保険加入手続きや生活マニュアル（日本語版・英語版）を用意するなど、受入体制を整備した。 ・プレースメントテストをオンラインで実施した。アンケートもオンラインで実施し、145名の対象者のうち129名が回答した。 ・日本語基礎を春学期前半はZoomで行い、後半は対面で行った。1限目に限らず、学生のスケジュールに合わせて行なった。また、N1指導を秋学期より開始した。 ・留学生委員会ワーキンググループを2回（7/15、9/2）、留学生委員会を1回（9/24）開催し、未入国学生への対応や日本語能力試験中止に伴う対応について検討した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・銚子市国際交流協会と連携し、地域コミュニティと積極的に交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、交流会を中止することとした。
⑤ キャンパス整備	【IV-4-5】 <ul style="list-style-type: none"> ・本部キャンパス食堂にソファと本棚を設置し、くつろぎのスペースを創る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本部キャンパス食堂に本棚（書籍）とソファを設置し、くつろぎのスペースを創った。

【V】大学運営と内部質保証

大学のマネジメント体制を充実・強化し、優秀な学生の確保と教職員に対する計画的で効果的な人材確保・育成を実践することを目指します。また、PDCA サイクルが適正に機能する実効性のある自己点検評価体制を整備して内部質保証システムの確立を目指します。

1. 大学のマネジメント（運営管理）体制の充実・強化に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
① 意思決定プロセスの整備・迅速化	【V-1-1】 <ul style="list-style-type: none"> ・統合した部署の意思決定プロセスを見直し、迅速に動く体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務組織の改編が大学機関決定され令和3年度より実施プロセスに入る。
② 教学マネジメント体制の充実	【V-1-2】 <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントポリシーに基づき3つのポリシーの達成状況を評価し、問題点を抽出する。3つのポリシーを適正に達成するため改善策を策定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で教学マネジメント委員会の開催に至っていない。そのため、評価資料としての授業アンケート、学生生活アンケート、卒業時アンケートの実施と結果のまとめを行った。
③ 大学事務業務の効率化	【V-1-3】 <ul style="list-style-type: none"> ・業務効率をアップさせることを目的に、各部署の業務内容を全職員に把握させ、職員同士、忙しい時には助け合いができる体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい事務組織が大学で機関決定され令和3年度より実施予定であり、また、各課の業務に支障が出ない範囲で同一部署が長期にわたる職員は異動する人事案を策定した。
④ 危機管理体制の整備・運用	【V-1-4】 <ul style="list-style-type: none"> ・年次計画に沿って飲料水・非常用食料等の備蓄等の非常時への対応を行う。 ・地震・津波避難訓練、防災訓練を通して、教職員に非常時における対応を周知させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス感染症防止対策の消毒液、消毒液を置くテーブル等を購入したため、非常用食料等の備蓄ができなかった。次年度については、再度計画を練り直し非常時への対応を行う。 ・地震・津波避難訓練、防災訓練は新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。

⑤ 適正な学部学科構想の検討	<p>【V-1-5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、外国人留学生の受入拡充、大学院の社会人受入体制の強化を行う。 ・航空業界を中心とした現場で活躍できる人材の養成を目指し、危機管理学部航空技術危機管理学科に新たなコースを展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院への社会人受け入れ増加を目指し、危機管理学研究科において、職業実践力育成プログラム (BP) への申請を行い、認可された。また、看護学研究科においては看護職に人気の高い認定看護管理者に対応できるよう今年度中にカリキュラム変更を行った。(2月理事会承認済) ・危機管理学部航空技術危機管理学科において、航空業界全般で活躍できる人材の育成を目指し教育課程の充実を行い、新たに「航空マネジメントコース」を設置した。(5月理事会承認済)
----------------	---	---

2. 戦略的広報対策に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
① 学生募集のための効果的な広報対策	<p>【V-2-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット広報を強化する。 ・新パンフレットを4月に完成させ、全国の高校に発送する。 ・各学科リーフレットを入試広報部で作成、タイムリーに適所に配布する。 ・留学生マーケットへの進攻と受け入れ体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広告代理店（リクルート、進研アド等）と協力し、スタディサプリ、マナビジョンなどの従来の広告形態の見直し、及び新規広告を順次行った。 ・新パンフレットを5月に作成し、全国の受験生に約10,000部、高校に約6,000部、協定校等に約240部を発送した。 ・学科ごとに3～5月に作成し、昨年を含めた資料請求者に約1,000部、オープンキャンパス参加者に560部、説明会等参加者に約500部を配布した。 ・留学生向けのオープンキャンパスを10月に2回実施した。また、151校の日本語学校を中心に広報活動を行った。
② 一般広報対策	<p>【V-2-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者を決めて、毎月ホームページのチェック作業を実施する。 ・オンラインプレスリリースを1ヶ月3本以上発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各選抜の出願受付、オープンキャンパス等のイベントごとに担当者が更新を都度検討している。各学科のウェブサイトについては、学科広報委員の担当者と打合せのうえ更新を行った。 ・配信を行う会社が当該業務を廃止したため、中止を余儀なくされた。他社を検討するも予算面から今年度は一旦中止とした。

③ 高大連携事業の推進・拡充	【V-2-3】 <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携推進協議会による高大連携推進教育研究交流会を開催し、参加者（高校教諭と本学教職員等）との交流を緊密にし、継続的な連携（出張講義等）に繋がる取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染防止、高校の授業遅れなどの理由から、推進協議会の会長（学長）、副会長（千葉県立銚子高等学校校長）と相談の上、今年度の教育研究交流会の開催を中止したが、幹事校 13 校を訪問し、高大連携に関する要望を尋ねた。
3. 入学者の確保・退学者等の減少に関する目標		
中期計画	令和 2 年度事業計画	令和 2 年度事業報告
① 優秀な学生の確保・入学者数の増加	【V-3-1】 <ul style="list-style-type: none"> ・入学者数を増加させることを目的に、入学者選抜方法を見直す。 ・優秀な学生を確保することを目的に、入試特待生制度に関する広報活動を適宜実施する。 ・ホームページ等を介して、ブランド力向上に繋がる情報を適宜発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学部の入学者を増加させるため、薬学部特色選抜として「後継者（薬剤師）育成型選抜」および「医療振興型選抜」を新設した。 ・銚子 3 校特別奨学生制度、入試特待生制度のチラシの作成・配布するとともに、大学 HP を通じて情報発信を行った。 ・大学 Facebook を通じて、大学の教育・研究に関する活動について、令和 3 年 1 月末時点で計 40 回の情報発信を行った。
② 退学者減少のための対応整備	【V-3-2】 <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目を 2 回欠席した学生には、教務課より電話等によって注意を行い、学生の現状把握及び学修意欲の向上を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務課において、出席確認システムを用いて出欠を確認し、随時実施した。3 月末での離籍者数を確認し、効果の検証を行った。
4. 教職員の人材育成・確保に関する目標		
中期計画	令和 2 年度事業計画	令和 2 年度事業報告
① 教員対象の組織的 FD 活動による人材育成	【V-4-1】 <ul style="list-style-type: none"> ・Moodle を含む ICT を用いた講義の導入を加速するための FD 講演会や FD 講習会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症防止対策のため、大学全体で同時双方向型遠隔授業（Zoom 利用）を実施することになり、全教員に対して同時双方向型遠隔授業に関する講習会を 12 月 23 日に実施し、教員 46 名、事務職員 9 名が参加した。

<p>② 専門性、年齢、性別等の構成を考慮した計画的な人材確保</p>	<p>【V-4-2】</p> <p>【薬学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性・年齢・性別等の構成のアンバランスを是正する計画を学部長、学科長など執行部で検討・立案する。 <p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理学部の現状は、教員の高齢化が進み、かつ女性の教員の割合が少ない。教員の新規採用時には、学部・学科の将来構想及び年齢、性別等を考慮した人選を行うことを検討する。 <p>【看護学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度のカリキュラム改正に向けて、カリキュラム内容の検討並びに、求められるカリキュラムに即した人材育成・確保を図る。 ・退職者の早期把握と、計画的な補充を行う。 	<p>【薬学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤師国家試験合格に向けた教育にプライオリティをおくこととし、これに向けた教育プログラム、教育組織の最適化をした。これを踏まえた上で、教員を補充できる機会には、専門分野構成のアンバランスの是正に努める。 <p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学習・日本語支援センター構想の検討に連携して、科目編成、担当教員の見直し、新規採用教員の検討を継続して実施し、今年度は航空技術危機管理学科に航空マネジメントコースの新設に伴う教員1名を採用した。 <p>【看護学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年6月にカリキュラム改正委員会を立ち上げ令和3年3月末に学部内で新カリキュラムの概要を決定した。また、求められるカリキュラムに則した人材育成について、学部FD（12月22日）でテーマを検討した。 ・年度途中での退職者2名、年度末での退職者3名、欠員領域1名に対し公募を行った。
<p>③ 教職員の自己点検制度の確立・運用</p>	<p>【V-4-3】</p> <p>【薬学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度検討した教員評価制度を基に自己点検・評価を実施する。 <p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度各学科で実施した教員評価制度をまとめ、実施の妥当性について検討し、改訂したものを実施する。 	<p>【薬学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月教授会で学部方針として薬剤師国家試験合格に向けた教育にプライオリティをおくこととしたことに伴い、評価内容についてより教育面を重視した評価への変更を決定し、新たな教員評価基準について、次年度より検討を開始する。 <p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年2月に全教員に自己評価を実施し、3月に学長に教員自己評価として報告した。

	【看護学部】 <ul style="list-style-type: none"> ・初年度より行っている自己点検・評価を継続して実施する。 	【看護学部】 <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年5月に学部長が教授全員に対し自己評価を基に面接を実施し、教授は各領域教員の面接を実施した。
④ 職員対象のSD活動を通じた計画的な人材育成	【V-4-4】 <ul style="list-style-type: none"> ・法人全体で行っている人材育成プログラムも取り入れながら、業務に直結する専門性のあるSD研修会を計画し、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、計画変更もあったが教職員研修会2回開催した。
5. 内部質保証システムの構築・運用に関する目標		
中期計画	令和2年度事業計画	令和2年度事業報告
① 実効性のある自己点検評価体制の整備・運用	【V-5-1】 <ul style="list-style-type: none"> ・各学部と自己評価委員会・教学マネジメント委員会が連携し、3つのポリシーに基づいた教育の質に係る自己点検・評価を全学的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により各組織の活動に遅れが生じ、連携した自己点検・評価を実施することが困難となったため、次年度に新たな評価体制に基づき、自己点検・評価を実施する。

主な行事予定

4月3日	新入生オリエンテーション（中止）
4月4日～5日	新入生一泊研修（中止）
4月6日	在学生春学期オリエンテーション（中止）
4月7日	入学宣誓式（中止）
5月17日	看護の日（中止）
5月30日	看護実践連携研究会（中止）
6月14日	オープンキャンパス（Web型）
7月5日	オープンキャンパス（Web型・来場型）
7月19日	オープンキャンパス（Web型・来場型）
8月1日～5日	教員免許状更新講習会（中止）
8月2日	オープンキャンパス（Web型・来場型）
8月9日	オープンキャンパス（Web型・来場型）
8月23日	オープンキャンパス（Web型・来場型）
8月24日～9月5日	春学期定期試験
8月30日	オープンキャンパス（Web型）
9月6日	教育進路懇談会（地方）（中止）
9月6日	オープンキャンパス（Web型）
9月13日	オープンキャンパス（Web型・来場型）
9月26日～27日	教育進路懇談会（本学）
9月30日	在学生秋学期オリエンテーション
10月3日	オープンキャンパス（Web型・来場型）
10月6日	就職懇談会（東京）（中止）
10月25日	オープンキャンパス（Web型・来場型）
11月7日～8日	青澄祭（大学祭）（中止）
11月8日	オープンキャンパス（Web型・来場型）
11月14日	学内業界研究会（延期）
11月15日	オープンキャンパス（Web型・来場型）
11月28日	看護実践連携研究会
1月16日～17日	大学入学共通テスト
1月25日～2月6日	秋学期定期試験
2月5日	薬剤師の仕事研究会
3月25日	学位記授与式

学生・教職員数

■在籍学生数

(令和2年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数		留学生		社会人		
			留学生	社会人		留学生	社会人	留学生	社会人			
大学院	薬学研究科（博士一貫）	3	1	0	0	12	3	1	0			
	薬学研究科（博士）	5	0	0	0	15	0	0	0			
	薬学研究科（修士）	10	2	0	0	20	5	0	0			
	危機管理学研究科（博士）	3	1	0	1	9	7	0	7			
	危機管理学研究科（修士）	5	14	0	13	10	19	1	16			
	看護学研究科（修士）	5	1	0	1	10	8	0	8			
大学院 計		31	19	0	15	76	42	2	31			
学部	薬学部	薬学科（6年制）	120	59	12	0	720	498	82	1		
		生命薬科学科 (募集停止)		—	—	—	75	43	3	0		
		計	120	59	12	0	795	541	85	1		
	危機管理部	危機管理学科	120	126	61	0	440	316	84	0		
		環境危機管理学科 (募集停止)		—	—	—	80	20	0	0		
		医療危機管理学科	80	76	5	0	320	247	6	0		
		航空技術危機管理学科	40	31	3	0	160	64	7	0		
		動物危機管理学科	60	50	7	0	200	119	8	0		
	計	300	283	76	0	1,200	766	105	0			
	学看護部	看護学科	80	99	0	0	320	311	0	0		
計		80	99	0	0	320	311	0	0			
学部 計		500	441	88	0	2,315	1,618	190	1			
総合計		531	460	88	15	2,391	1,660	192	32			
留学生別科		40	5	5	0	40	6	6	0			

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(令和2年度)

区分	修了者・卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	7	2	2	100%	0	3	1	11
学部	373	348	286	82%	13	48	12	111

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (令和3年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	総務省、葛飾区役所、練馬区役所、防衛省 航空自衛隊、一般曹候補生、警視庁、千葉県警察、東京消防庁、千葉市消防局、船橋市消防局、横浜市消防局、日本調剤、アイングループ、ウエルシア薬局、アイセイ薬局、スギ薬局、クオール、クラフト、くすりの福太郎、マツモトキヨシホールディングス、毎日薬局、銚子商工信用組合、国保旭中央病院、成田富里徳洲会病院、神栖済生会病院
-------	--

■教職員数

(令和2年5月1日現在)

学長	副学長	教授※	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員計	事務職員
1	3	62	22	23	12	1	1	125	56

※学長・副学長除く

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和元年度 決算額	令和2年度 決算額
教育活動 収入	学生生徒等納付金		2,498,707	2,512,649
	経常費等補助金		252,740	271,796
	その他収入		147,034	115,338
	計		2,898,481	2,899,783
	教育活動 支出	人件費		2,326,111
教育研究経費			1,204,915	1,026,938
管理経費			395,705	238,113
その他支出			3,277	769
計			3,930,008	3,337,976
教育活動収支差額			△ 1,031,527	△ 438,193
教 活 外	収入	受取利息等	4	4
	支出	借入金利息等	3,026	2,478
	教育活動収支差額		△ 3,022	△ 2,474
経常収支差額			△ 1,034,549	△ 440,667
特 別	収入	資産売却差額等	1,269	2,065
	支出	資産処分差額等	4,420	0
	特別収支差額		△ 3,151	2,065
基本金組入前収支差額			△ 1,037,700	△ 438,602
基本金組入額合計			△ 272,255	△ 61,446
当年度収支差額			△ 1,309,955	△ 500,048

■施設設備整備事業（抜粋）

(単位：千円)

事業名	金額
第5期ネットワークリプレイス	65,450